

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	新生メディカル瑞穂営業所
(ユニット名)	グループホームしんせい
所在地 (県・市町村名)	瑞穂市別府1193番地
記入者名 (管理者)	堀 順子
記入日	平成 19 年 8 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスをミーティングで話し合い地域のなかで利用者が生活を継続していくことやグループホームの地域への役割について検討した。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時にはグループホームとはどういうところかと説明し理念を伝えている。ミーティングの中でも具体的なケアに反映する方法を検討している	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民・家族にむけて機関紙を発行している。盆踊り、文化祭クリスマス会の案内を地域に配布し参加を呼びかけつつ、グループホームの役割を理解してもらえようとしている	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	商店街の喫茶店や八百屋へ出かけティータイムをとったり買物をしている。八百屋さんには配達も依頼しておりGHの存在を近隣の人たちから認知されてきている	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学校、保育園との交流を体験学習の受入や保育園の誕生会への参加をしている 地域の作品展に習字パッチワークを出品した。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>責任者は認知症サポーター養成講座の開催準備に協力し地域住民に参加を求め、認知症ケアの啓発に努めている。職員も順次にサポーター養成講座に参加している</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>家族会を開催し家族からの聴き取りにより(センター方式の記入)アセスメントを行った。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・地域への情報紙発行について出席者の意見を聞いたり、遠隔地への外出について意見助言を得ている。また老人会への参加の意義を検討したり老人会の活動情報を得ている。</p> <p>・常日頃の利用者の様子やグループホームの活動報告を行っている</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>認知症サポーター養成講座の開催について市の保健師と相段をしている</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際権利擁護事業や成年後見制度を利用する利用者の該当はないが、責任者は研修を受けているが職員全員が周知しているとはいえない。</p>	<p>○</p> <p>今後ミーティングで勉強会を行う</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングで高齢者虐待防止法について勉強会を開いて意見交換をした</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入院時の対応や入居後のリスクも含めて具体的に説明をし 利用者、家族が納得して入居できるように対応している	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が個々に意見不満を責任者、職員に言う事はあるが介護相談陰を派遣していない。	○ 介護相談員の訪問を依頼していく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、初旬に機関紙を郵送し本人の健康状況、日常の様子を伝えている。体調の変化転倒などの事故が起こった時も連絡している ・機関紙とともに金銭出納帳の写しを郵送している ・家族会を開きパワーポイントで日頃の様子を見てもらった。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情を訴える方法についてのポスターの貼付や意見箱の設置はしているが、反映までは至っていない	○ 家族会で話し合いを持ったり個別に要望を聴く機会を持つ
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のヘルパー勉強会やミーティングで意見を聞くようにしているが 責任者は職員の不満やストレスの実態を十分把握しきれていない	○ 意見が言いやすい雰囲気作りやストレスが軽減できる場を考える
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本の人員配置の他に利用者の状況に合わせサブヘルパーを配置し入浴アクティビティの参加が出来るようにしている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者によっては、離職した職員の事を気にするため今後同様の事態が起こった時は、後任の職員との信頼関係が築けるよう話し合いを持ち最善を尽くす	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年間研修計画を立案し全員が社外、社内の研修に参加できるようにしている。 ・ミーティングで研修報告をしている ・責任者はケアの様子の中から感じた事を機会を捉えては職員に伝えてフィードバックしている	○ 研修報告の閲覧が出来るようにする
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修として地域の同業者の施設で交換研修を行い自社のサービスを客観的に考える機会をもっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と個別に随時話す機会を持ち疲労感、不満、不安を把握するように努めてはいる。 ・話やすい雰囲気をつくり心掛け親睦の場を設けている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・機会を捉えては職員と話したり、評価面接を行い職員の段階に合わせた課題を確認している。 ・課題にむけてミーティングの中で勉強会を開いている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	殆どの入所希望が通所サービスを利用しており本人・家族と話をすることがあり信頼関係は出来ている。本人から直接困りごとと言う形で訴えを聞くことは無いが、家族の相談内容は本人に常に接しているため理解できている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用状況、家族の困りごとを事前に聴き対応している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、他のサービスの利用状況聴きながら、在宅での困りごとを聴くようにしている。必要に応じて他のサービスの利用を提案する事もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用を経て入居するケースが殆どであり顔見知りの利用者、職員との関係が継続する為入居による混乱はみられない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩と接しており、利用者の発言に教えられたり、励まされたりする事が多々ある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	機関紙や電話、カンファレンスを通して本人の様子を伝えたり相談して共に本人の今後を考えていく協力関係を築けるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	通院介助や美容院への同行、外食・外出を家族に依頼し家族との関係が疎遠にならないよう努めている ・毎月機関紙を郵送し様子を伝えている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人が訪問した時は、ゆっくり会話ができるように場面設定をする。 ・行きつけの美容院にご家族と共にしてもらい生活習慣を大切にしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気のあった利用者同士が会話しやすいように食卓に座る位置や外出する際、車の座席の位置に配慮している 食器の片付けを、洗う人拭く人と役割分担をし協力して生活している雰囲気をつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	この1年間終了ケースはないが、今後サービスが終了した時は関係を継続する事を大切にしたい	○	機関紙・行事の案内を送付することで関係を継続する
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族との面会時の様子や日頃の発言から希望や意向を把握するようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族会を開いた時や面会時に情報を得るようにしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	体調の日内変動、精神状態、睡眠状況等を考慮しながら家事、散歩外出、アクティビティの声かけを行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人ご家族にどのように暮らしたいかを聞き、モニタリングカンファレンスを行う中でケアプランを立てるようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を決めてケアプランの見直しを担当者が行いカンファレンスで検討している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況の記録や発言内容、アクティビティでの様子等を個別に記録し共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制加算の指定を受け利用者の健康管理をしている 通院介助を必要に応じて行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員・自治会長には運営推進会議への出席や避難訓練への参加を依頼している。 ・近隣のお話ボランティアにはティタイムでの話し相手や新聞の解説をしてもらっている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問介護を相対利用し、家事援助や話し相手を依頼している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターとの連携を行っていない	○	運営推進会議の参加要請をし情報交換を行っていく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師に毎月往診を依頼し体調管理を行っている。医師には利用者の様子を伝え健康上の問題を日頃から相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃から認知症専門医に日頃より受診はしていないが利用者に行動障害が見られたり受診が必要な利用者には相談している	○	今後は、重度化に伴い専門医への受診を家族と相談して検討していく
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	パートで看護師を配置したり訪問看護を依頼し健康管理や医師との連携を行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は見舞いに行き不安感の除去に努めた。退院後は家族出席のもとカンファレンスを開きケア上で気をyつけることを確認した		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部の利用者に終末期についての考えを聞いたり家族には重度化の指針を提示している。職員間で重度化した場合について検討する機会を設けた。かかりつけ医とは往診時を捉えて終末期の医療に関することを話題にしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携体制加算の届出を機会に職員間で指針に基づき重度化した場合GHで出来る事、出来ない事を検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	この1年間住み替えた利用者はいないが今後住み替えがあった場合協働によりダメージに配慮したい		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	食事介助を行う際他の利用者の目に触れない工夫が必要である
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	抹茶を希望する利用者の要望に応える

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表からアセスメントしてトイレ誘導を行い出来る限り布パンツを使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回入浴できるように職員を確保しているがどの時間帯でも入浴可能ではない	○	今後昼間の希望者がいれば検討する
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事後横になって休む習慣のある利用者には居室で食休みを取ってもらったり、パーキンソンで午後から疲れのみられる利用者にはベッドで1時間ほど休息してもらっている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	デイサービスのアクティビティにほぼ毎日参加し、歌ったり料理をしたりしている。以前徳山村に住んでいた利用者には徳山展の見学に行ったり歌舞伎を好んでみていた利用者の情報を得て日舞を劇場で観賞した		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は支払い、金銭出納帳の記載をおこなっている。買物時支払いをすることができる利用者には職員が見守りながら支払いをしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、喫茶店等の外出を利用者の状況を考慮しながら生活の中に取り入れている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	中日劇場での日舞観賞やクラシック音楽鑑賞、蛍見物ゆり園見学花火見物等毎月年間計画を立てて外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかけられる利用者は自らダイヤルを回して電話をかけている。 毎月の通信の宛名書きや暑中見舞いを出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族との外食、面会・友人からの差し入れがどの利用者にもみられる。また美容院でのカットや通院をしている家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者がベッドに対して斜めに眠る習慣があるため転落防止の為柵を2本使用していた時期があったが、拘束に該当するのではないかと職員間で話し合い1本除去した。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的にはエレベーターを利用して出入りしており施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は1時間ごとに居室を巡回し、日中はデイへの参加、GHに戻る時など場面の切り替わる際一人一人の所在を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居当初は、食器用洗剤を使用時以外は目の届かない所に保管していたが経過観察していくなかで異食がないことがわかり現在は目に触れても問題はない。はさみ、包丁などの取り扱い後は速やかに保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故は、ヒヤリハットはフィードバックシートを使って原因究明と対応策を記載し共有する		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ヘルパー勉強会やミーティングで心肺蘇生法、ハイムリック方などの緊急対応や救急車の呼び方などシミュレーションをしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行っている。火災の場合、地震の場合を想定し起こりうる状況を予測し避難方法を考えて訓練をしている。民生委員、近隣住民の協力を要請するときもある。	○	水害を想定して避難訓練を行っていないので今後取り入れる
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に人員配置の説明を行い起こりうるリスクの予測について話し合いを持っている。サービス利用にリスクが伴う事について了解を得ている。毎月の通信(機関紙)を発行して現状の報告をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ケア時に気づいた体調の変化は責任者に報告し、受診の必要性を看護師と相談している。連絡帳に記入し受診の結果や留意事項を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を受領後仕分けを夜勤職員で行っており全員の職員が処方箋を読んでいる。服薬介助後の体調の変化、尿量やふらつき排便の気配の観察をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を使って排便のコントロールが必要な利用者には服薬で管理する一方で繊維を多く含んだ食物摂取や乳酸飲料ヨーグルト摂取につとめ自然排便を促す水分量の計測を行っている。朝昼の体操、散歩を日課に取り入れるようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕は口腔ケアを行い、利用者によっては昼食後うがいをしている	○	全員の利用者が昼食後の口腔ケアを行っていないので声かけをしていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日に必要な水分量が確保できるようチェック表をつけている。 ・食事量を記録し情報を共有している ・夕食を摂らずに入眠してしまった利用者には夜間でも食事を提供する		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	浴室は入浴終了後、浴室の消毒を行っている ・ノロウイルス対策としては1日2回の消毒、ペーパータオルの使用をしている 。感染症マニュアルで勉強会を行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・賞味期限を書き出し職員の目に付く所に貼付している ・夜間ふきん、まないた、の消毒を行っている ・調理を行う前に手洗い手指の消毒を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	通常は、デイの玄関を利用してエレベーターで昇降している。外部からの訪問者には看板を掲げ玄関口の案内をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の果物、生け花等で季節感を感じていただけるように配慮している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファをおいて気のあった利用者同士で会話をしたりテレビを見ている。ポータブルトイレや、トイレ前に椅子を置き利用者同士が距離をおけるようにはしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が在宅で使用していた、箆箆・机・椅子を配置し親しみやすい環境作りをしている。利用者によっては位牌や感謝状ぬいぐるみを 持ってきている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、居室台所の換気を行っている。常時換気扇を台所・トイレは行っている。特にノロウイルスが心配される季節は換気に努めた。 体温調節の困難な利用者の居室の空調管理には配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設後利用者の状況に合わせてトイレ、浴室に手すりを後づけで設置し自立を意識している		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活場面で配膳、食器洗い、食器拭き、洗濯物干しを保有能力に合わせて行っている。トイレ、浴室は理解しやすいように表示している		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭で家庭菜園を作り夏野菜を栽培している。 利用者と共に畝作り施肥、植え付け、支柱立てを行った。 庭に出てベンチに座り、作物を眺めたり収穫したりしている。 ・中庭でバーベキューをしたりティタイムを楽しむ事もある。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・商店街の中に開設しているグループホームの地の利を活かし近隣での買物、喫茶店でのティタイム、行きつけの美容室が在ること入居後も地域との繋がりが継続可能である。
- ・認知症デイサービスとの併設であり、日々多くの人との交流やアクティビティへの参加ができ社会的な交流が図れる。
- ・入浴回数が週4～5回確保できている事。
- ・ほぼ全員の職員が社外、社内の研修に参加している事
- ・認知症勉強会を定期的に事業所内で行い理解を深めている